

平成17年度県政世論調査

1. 男女共同参画について

(1) 家庭生活・職場等の分野別男女平等感

問7 あなたは、次のそれぞれの分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目について、それぞれ①～⑥のうち該当する番号を1つだけあげてください。

[N=1,319]

(単位 %)

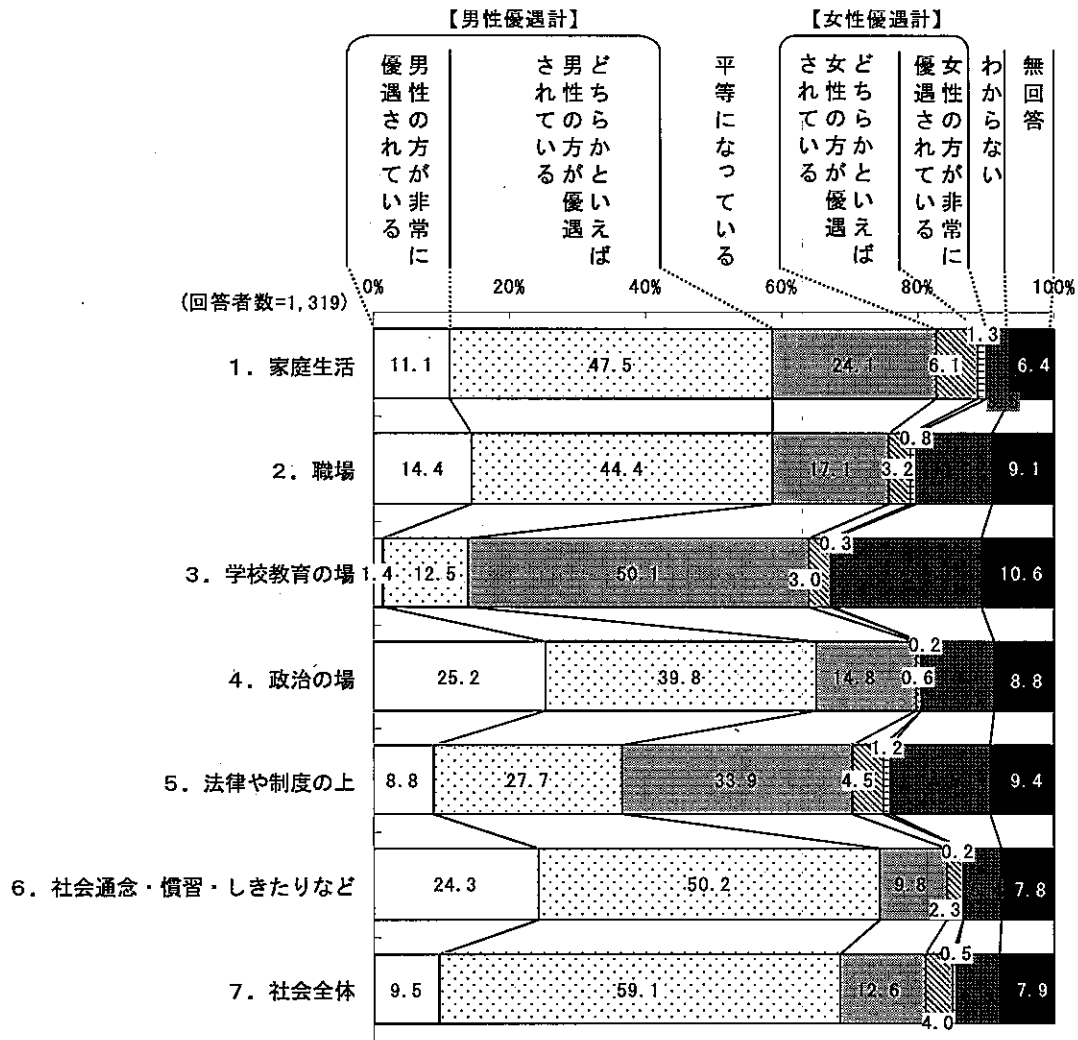
	① 優男性 遇さ れ方 が非 常に	② さ男 れど 性ち のら か と 優 い え ば	③ 平 等 に な っ て い る	④ さ女 れど 性ち のら か と 優 い え ば	⑤ 優女 遇さ れ方 が非 常に	⑥ わ か ら な い	無 回 答
1 家庭生活	11.1	47.5	24.1	6.1	1.3	3.5	6.4
2 職場	14.4	44.4	17.1	3.2	0.8	11.1	9.1
3 学校教育の場	1.4	12.5	50.1	3.0	0.3	22.0	10.6
4 政治の場	25.2	39.8	14.8	0.6	0.2	10.6	8.8
5 法律や制度の上	8.8	27.7	33.9	4.5	1.2	14.5	9.4
6 社会通念・慣習・しきたりなど	24.3	50.2	9.8	2.3	0.2	5.4	7.8
7 社会全体	9.5	59.1	12.6	4.0	0.5	6.5	7.9

男女平等感について、学校教育の場では「平等になっている」と答えた人の割合が5割に達しているほか、法律や制度の上が3分の1、家庭生活が4分の1、職場、政治の場、社会全体で1割台、社会通念・慣習・しきたりなどでは1割未満となっている。学校教育の場と法律や制度の上、以外の分野ではいずれも「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇計」の割合が5割を超えており、なかでも社会通念・慣習・しきたりなどでは7割を超え、政治の場や社会全体では6割を超えている。

注)・「男性優遇計」とは「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「男性の方が非常に優遇されている」を合わせた割合

・「女性優遇計」とは「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた割合

〈 家庭生活・職場等の分野別男女平等感 〉

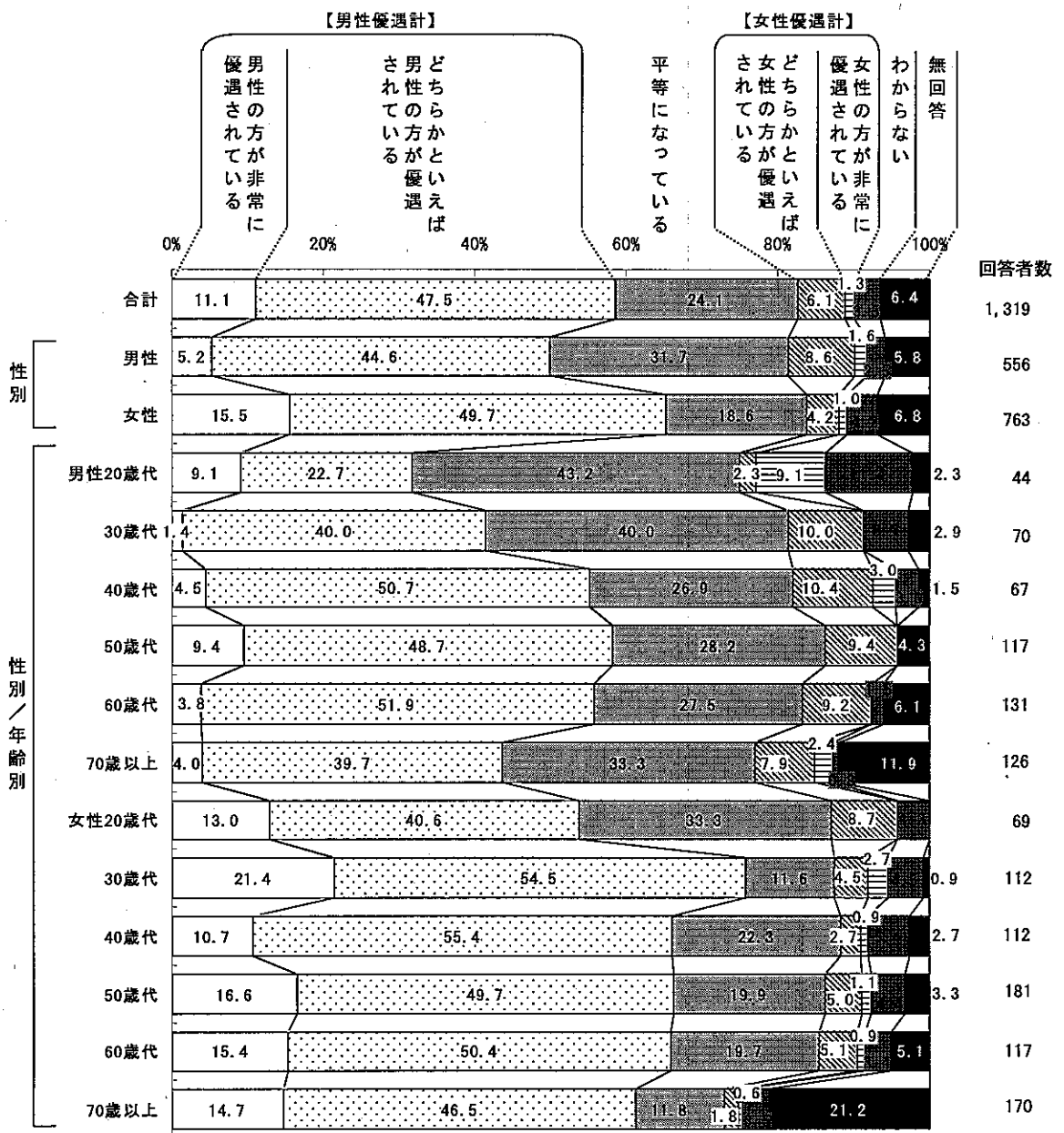


①家庭生活

家庭生活における男女平等感を性別にみると、男性では「平等になっている」が31.7%、「男性優遇計」が49.8%であるのに対して、女性では「平等になっている」は18.6%で、「男性優遇計」は65.2%となっている。

性別／年齢別にみると、「男性優遇計」が男性の40歳代から60歳代、女性の全年代において5割を超えており、特に30歳代女性では75.9%と最も高くなっている。「平等になっている」は、男性、女性ともに20歳代が一番高くなっているが、20歳代男性では「平等になっている」が43.2%を占めている。

〈性別・年齢別 家庭生活における男女平等感〉

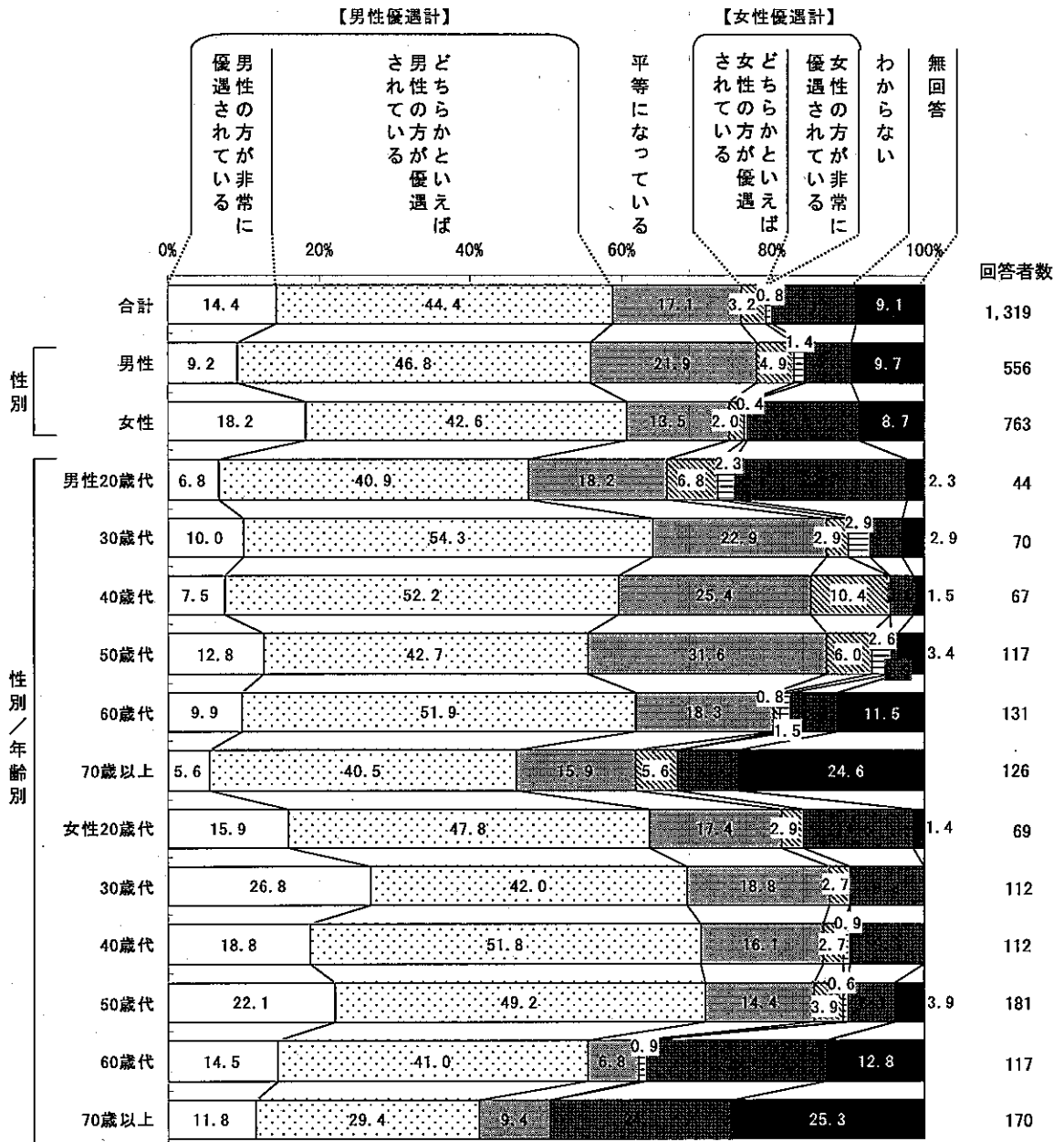


②職場

職場における男女平等感を性別にみると、男性では「平等になっている」が21.9%、「男性優遇計」が56.0%であるのに対して、女性では「平等になっている」は13.5%で、「男性優遇計」が60.8%となっている。

性別／年齢別にみると、「男性優遇計」が男性では30歳代から60歳代、女性では20歳代から60歳代において5割を超えており、特に30歳代の女性では「男性の方が非常に優遇されている」が26.8%と高くなっている。「平等になっている」は、50歳代の男性が31.6%と一番高い。

〈性別・年齢別 職場における男女平等感〉

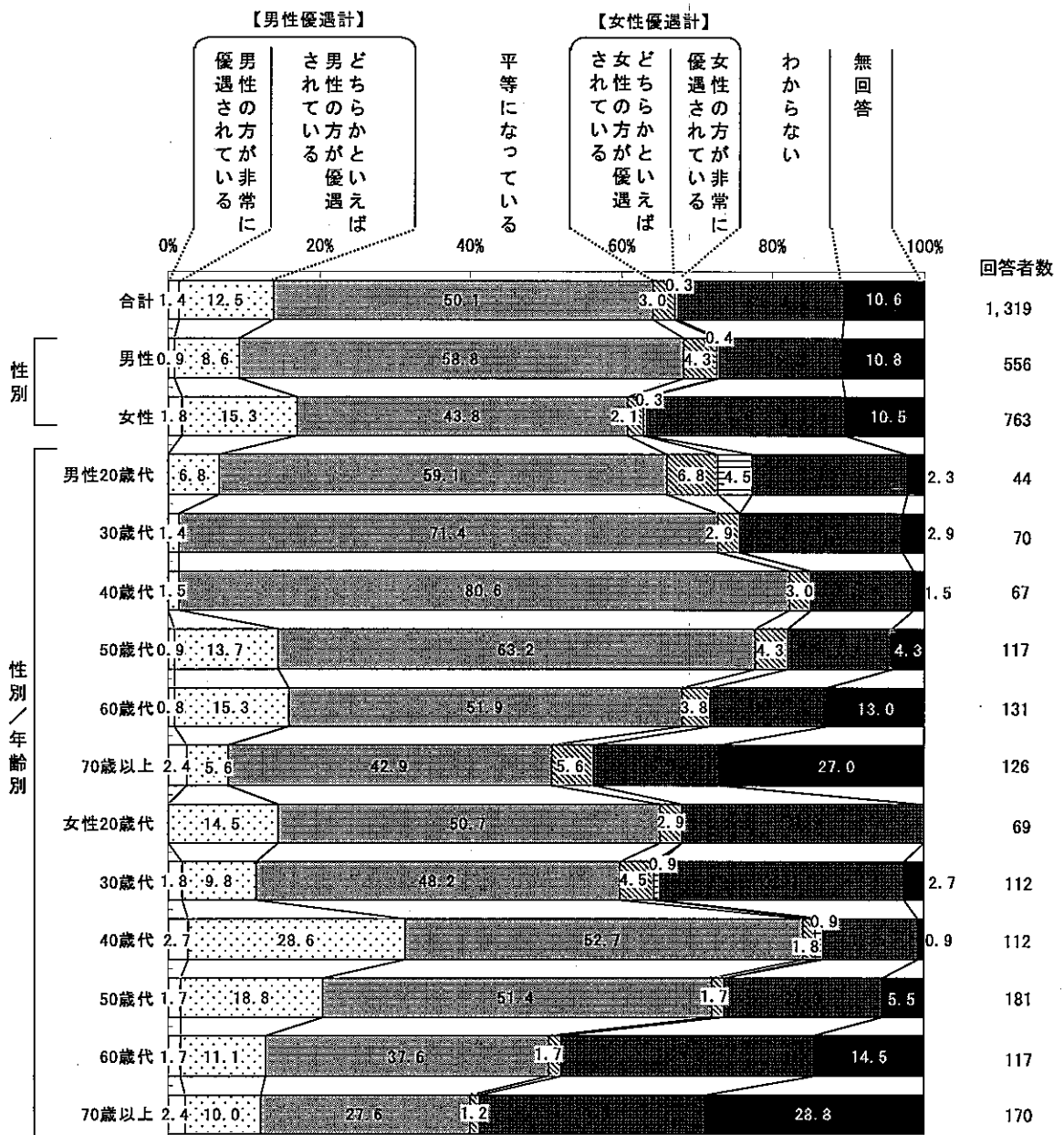


③学校教育の場

学校教育における男女平等感を性別にみると、男性では「平等になっている」が6割近いが、女性では4割台となっている。

性別／年齢別にみると、どの年代でも男性の方が「平等になっている」の割合が大きくなっており、40歳代の男性は8割、30歳代の男性は7割となっている。「男性優遇計」の割合が大きいのは40歳代の女性であり31.3%となっている。

〈性別・年齢別 学校教育の場における男女平等感〉

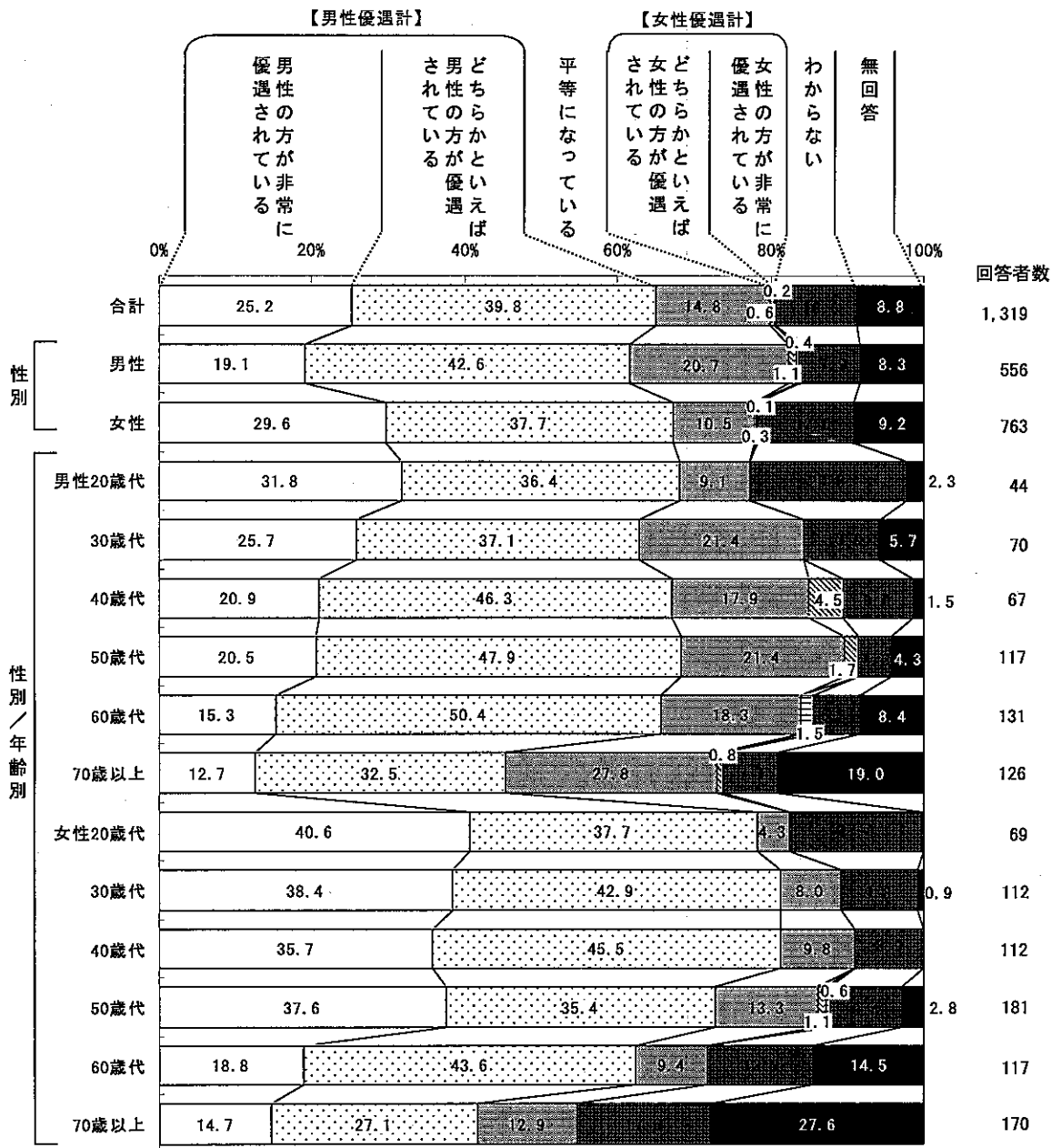


④政治の場

政治の場における男女平等感を性別にみると、男性では「平等になっている」が 20.7%、「男性優遇計」が 61.7%であるのに対して、女性では「平等になっている」は 10.5%で、「男性優遇計」が 67.3%である。

性別／年齢別にみると、「男性優遇計」が、男性、女性ともに 20 歳代から 60 歳代で 6 割～8 割を占めている。「平等になっている」は、男性の 70 歳以上が 3 割弱で一番高く、男性の 20 歳代、女性の 20 歳代から 40 歳代、60 歳代は、1 割未満である。

〈 性別・年齢別 政治の場における男女平等感 〉

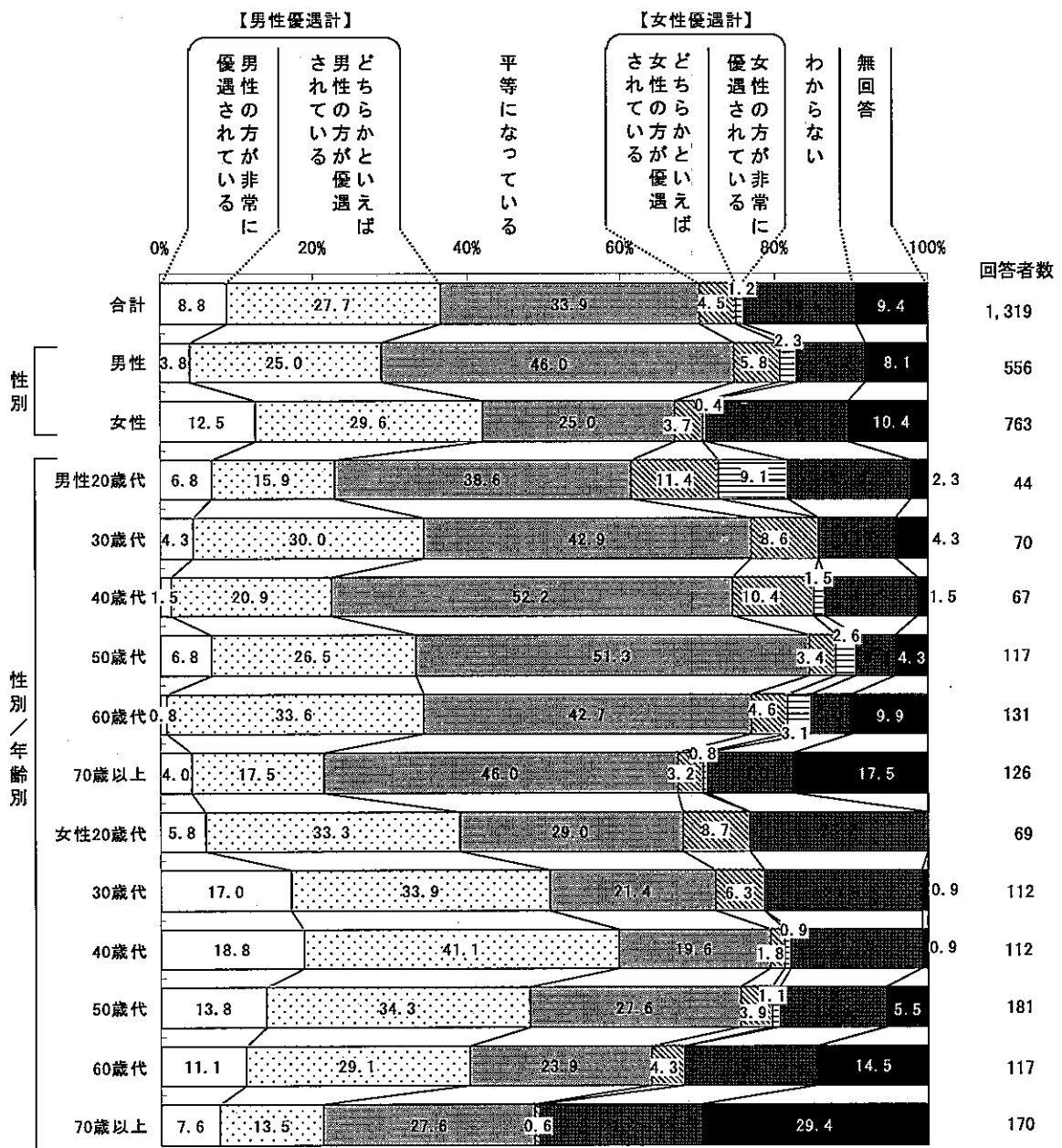


⑤法律や制度の上

法律や制度の上における男女平等感を性別にみると、男性では「平等になっている」が46.0%、「男性優遇計」が28.8%であるのに対して、女性では「平等になっている」は25.0%で、「男性優遇計」が42.1%になっている。

性別／年齢別にみると、「平等になっている」は、男性は4割弱から5割で、特に40歳代、50歳代においては5割を超えている。一方、女性は20歳代が一番高く29.0%であり、40歳代が一番低く19.6%となっている。「男性優遇計」は、男性の全ての年代、女性の20歳代と70歳以上は2割～3割台であるのに対し、女性の30歳代から60歳代では4割以上であり、特に40歳代女性は59.9%と高くなっている。

〈性別・年齢別 法律や制度の上における男女平等感〉

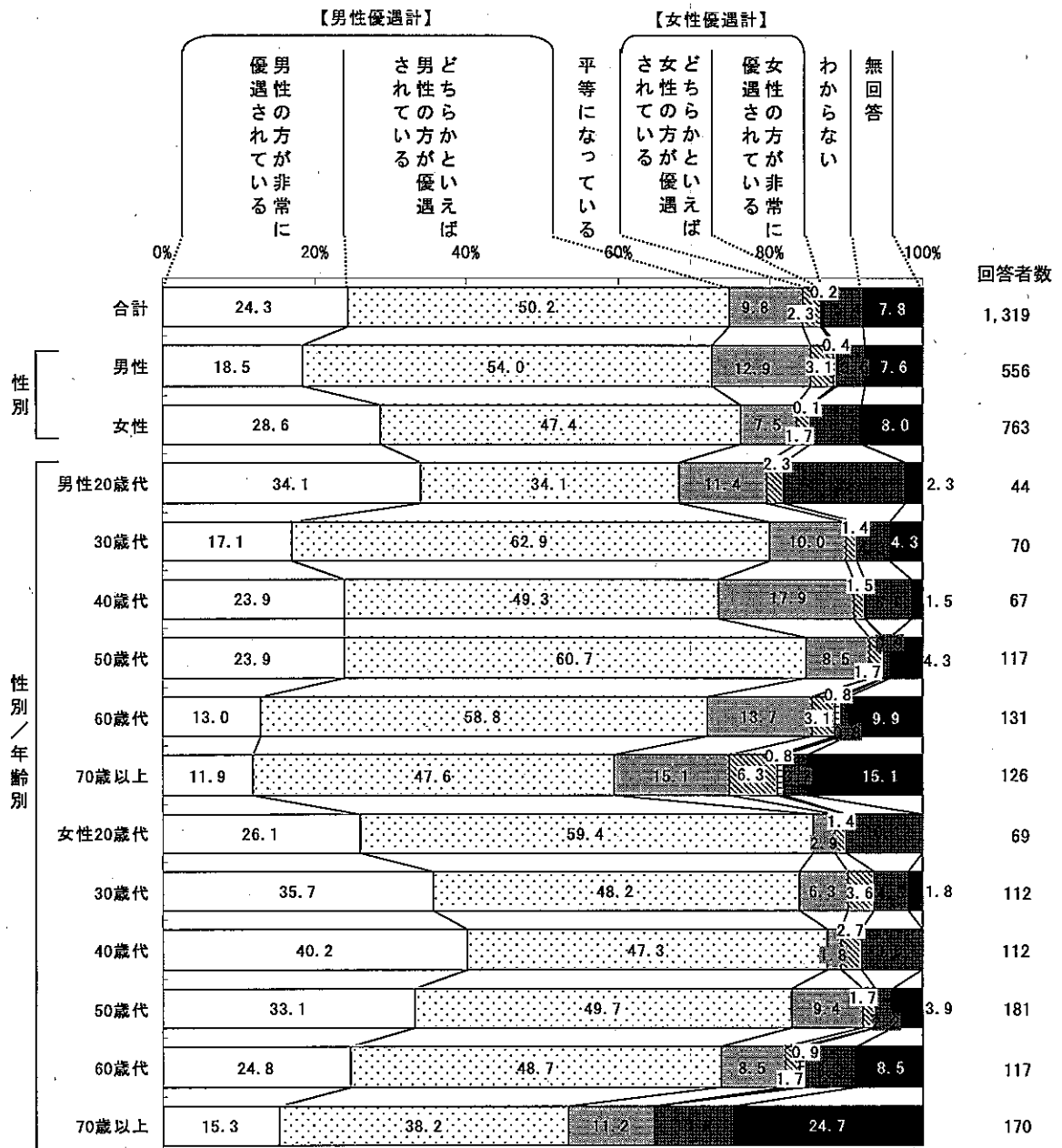


⑥社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女平等感を性別にみると、「男性優遇計」は男女とも7割を超えているが、女性の方が男性よりも割合が大きく、「平等になっている」は男性が1割台で、女性は1割未満となっている。

性別／年齢別にみると、「男性優遇計」は、男性の30歳代、50歳代、女性の20歳代から50歳代では8割を超えている。「平等になっている」は、男性の50歳代、女性の20歳代から60歳代が1割未満であり、男性の他の年代、女性の70歳以上が1割台となっている。

〈性別・年齢別 社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女平等感〉

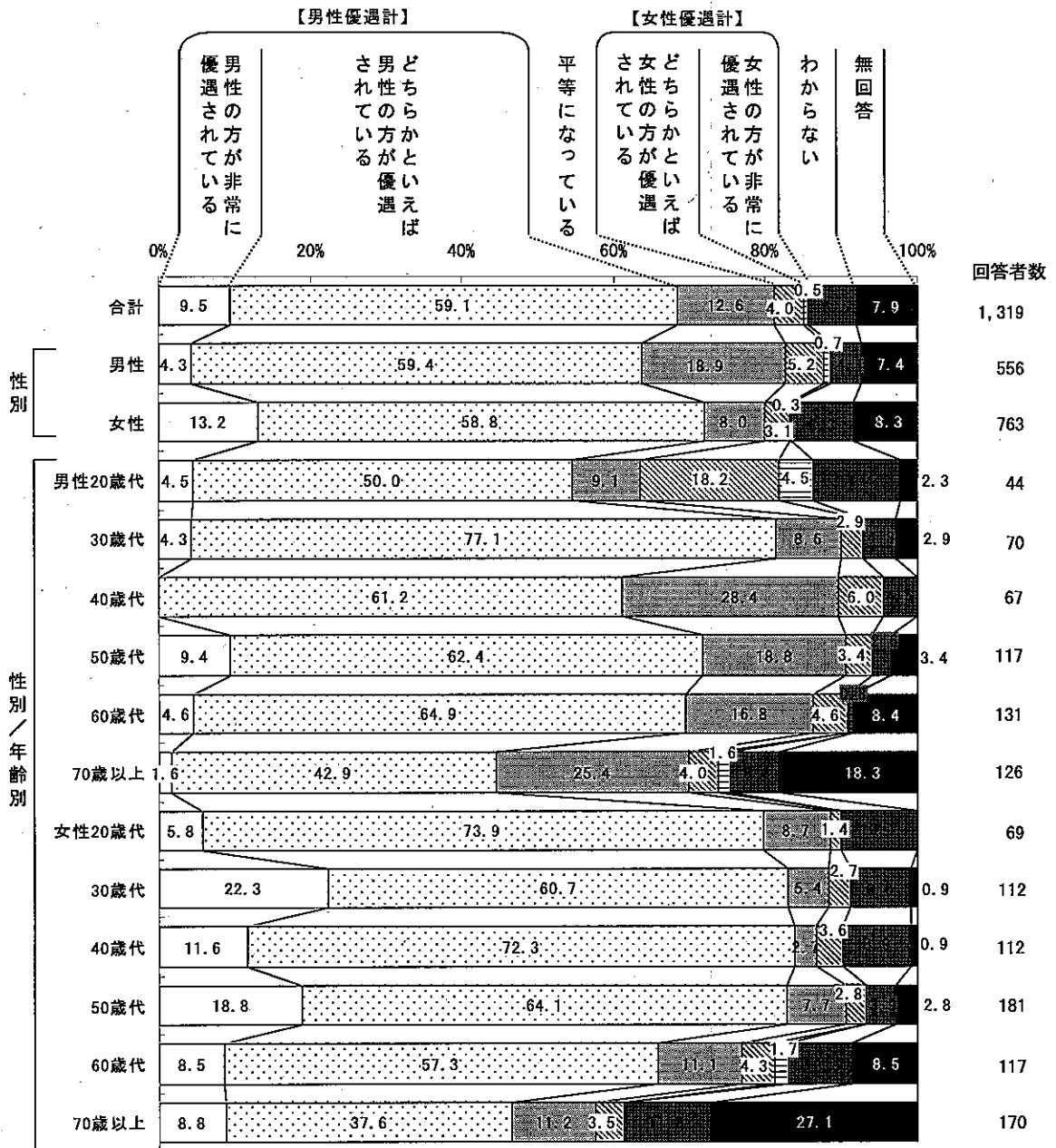


⑦社会全体

社会全体における男女平等感を性別にみると、「男性優遇計」は女性が7割、男性が6割を超えている。一方、「平等になっている」は男性が2割近くであるが、女性は1割未満となっている。

性別／年齢別にみると、「男性優遇計」は、男性の30歳代、50歳代、女性の20歳代から50歳代では7割を超えており、特に30歳代では男性、女性ともに8割を超えている。「平等になっている」は、40歳代、70歳以上の男性が高く2割台となっている。

〈性別・年齢別 社会全体における男女平等感〉



(2) 家庭生活と家族観と性別役割分担意識

問8 家庭生活と家族観(男女の役割)についておたずねします。次の項目について、あなたはどのようにお考えですか。それぞれ①～⑤のうち該当する番号を1つだけあげてください。

(単位 %)

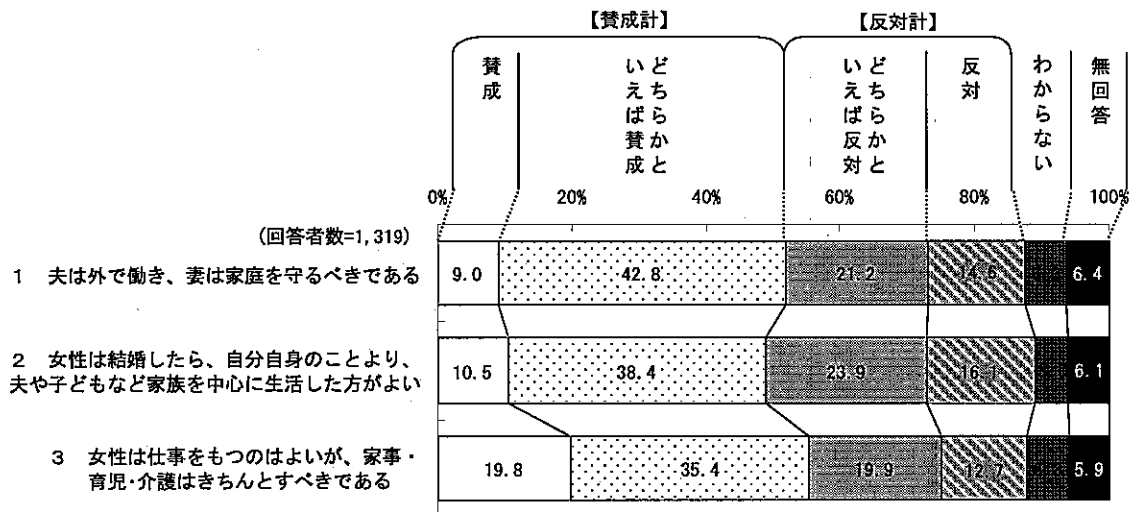
	① 賛成	② い ど え ち ら ば ら か と 賛 成 と	③ い ど え ち ら ば ら か と 反 対 と	④ 反 対	⑤ わ か ら な い	無 回 答
[N=1,319]						
1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	9.0	42.8	21.2	14.6	6.0	6.4
2 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	10.5	38.4	23.9	16.1	5.0	6.1
3 女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである	19.8	35.4	19.9	12.7	6.3	5.9

家庭生活・家族観(男女の役割)について、三つの項目の【賛成計】は5割前後で、【反対計】は3割から4割であり、すべてで【賛成計】が【反対計】を上回っている。

- ・『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、【賛成計】は51.8%、【反対計】は35.8%となっている。
- ・『女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』という考え方について、【賛成計】は48.9%、【反対計】は40.0%となっている。
- ・『女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである』という考え方について、【賛成計】は55.2%、【反対計】は32.6%となっている。

注)・【賛成計】とは「どちらかといえば賛成」と「賛成」を合わせた割合
 ・【反対計】とは「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた割合

〈 家庭生活と家族観と性別役割分担意識 〉

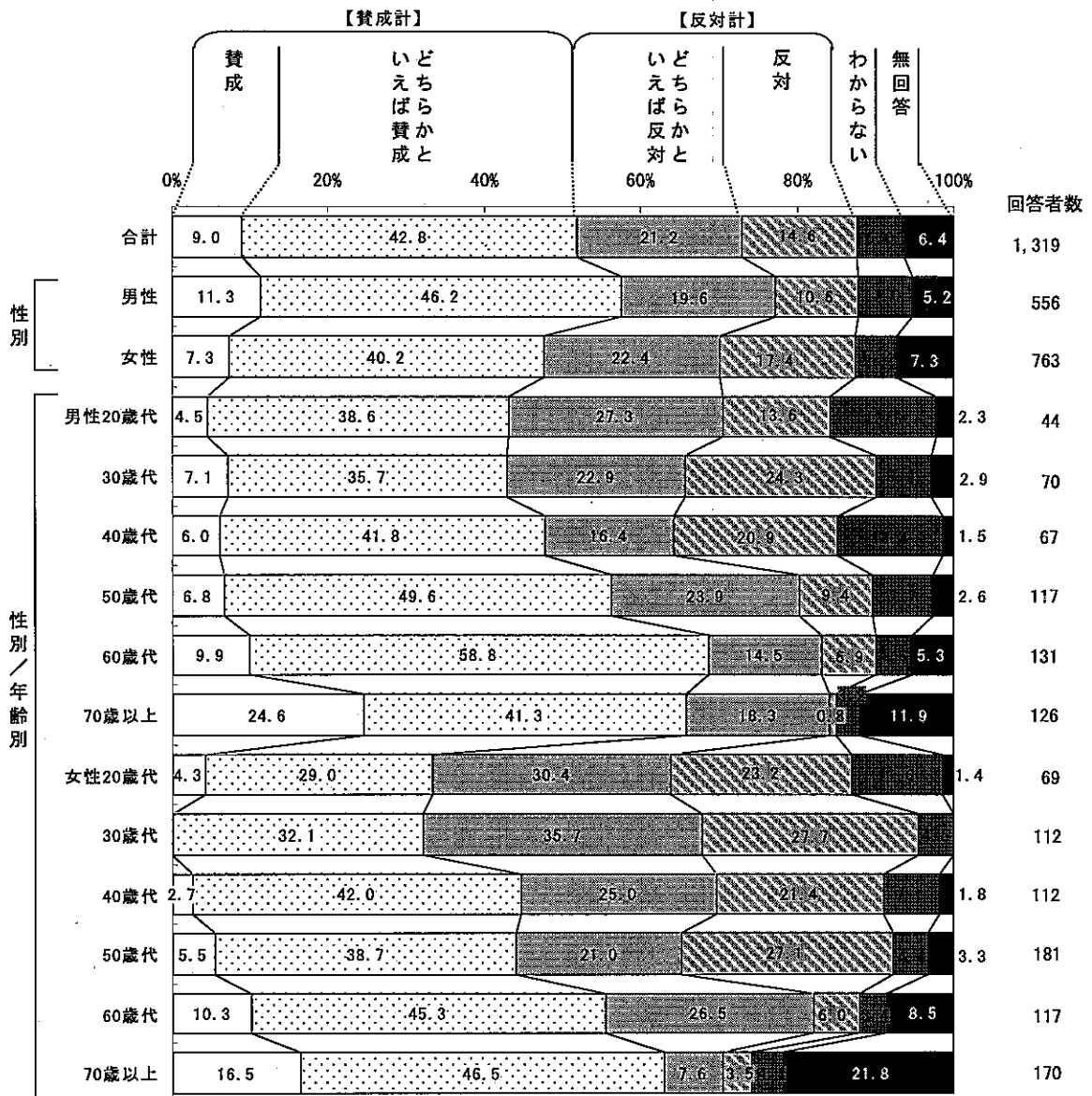


①夫は仕事 妻は家庭

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方を性別にみると、【賛成計】は男性が57.5%、女性が47.5%と男性が10ポイント高く、逆に【反対計】は女性が39.8%、男性が30.2%と女性が9.6ポイント高い。

性別／年齢別にみると、男性の30歳代、女性の20歳代から50歳代は【反対計】が【賛成計】を上回っている。一方、女性の60歳代以上、男性の30歳代以外の年代については、【賛成計】の割合が【反対計】を上回っているが、全体として【賛成計】の割合は年代が上がるにつれて高くなり、逆に【反対計】の割合は年代が下がるほど高くなる傾向がみられる。

〈 性別・年齢別 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである 〉

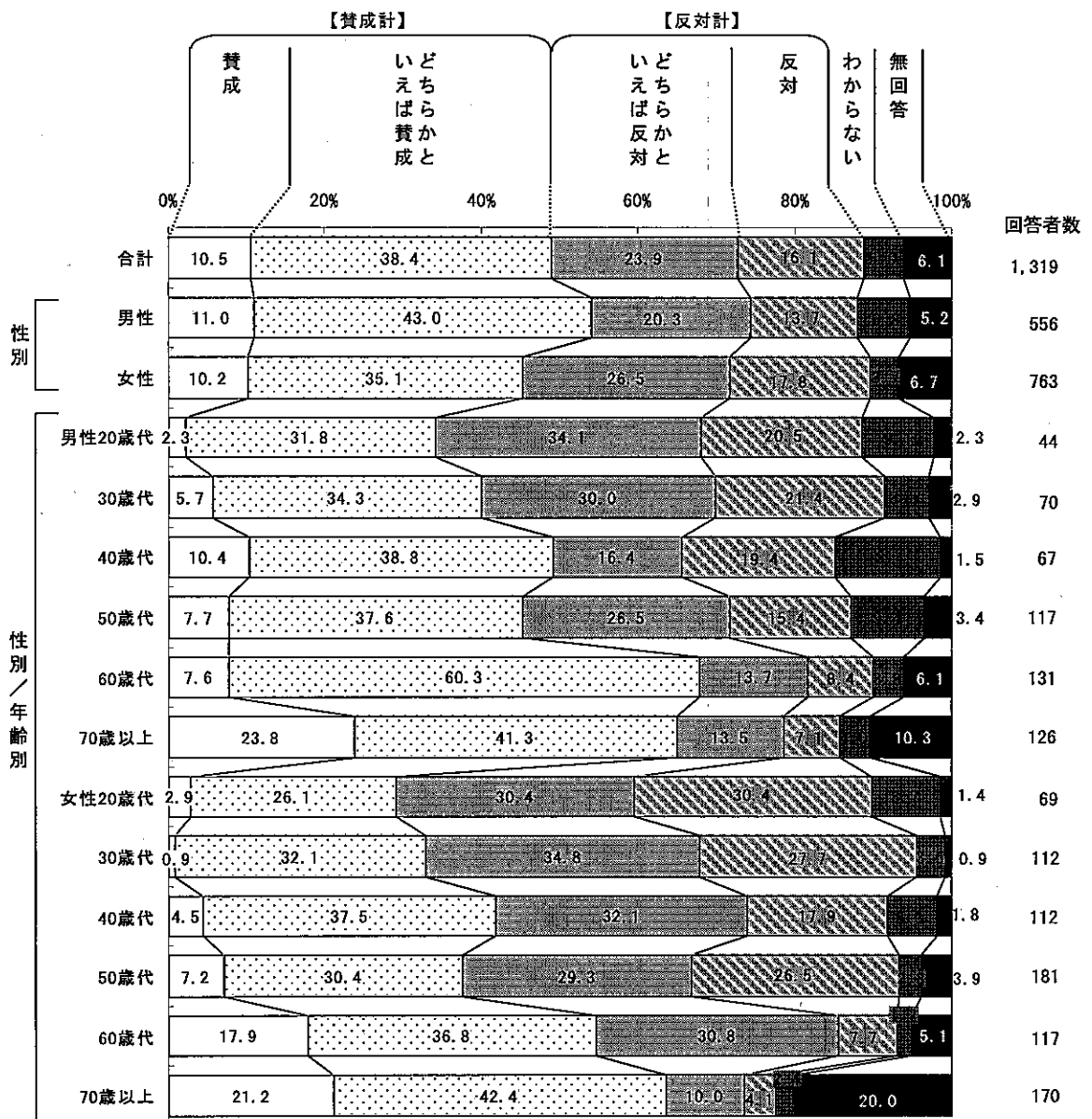


②結婚後、女性は家族中心

『女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活した方がよい』という考え方を性別にみると、【賛成計】は男性が54.0%、女性が45.3%と男性が8.7ポイント高く、逆に【反対計】は男性が34.0%、女性が44.3%と女性が10.3ポイント高い。

性別／年齢別にみると、全体として【賛成計】の割合は年代が上がるにつれて高まり、逆に【反対計】の割合は年代が下がるほど高まっている。男性は20歳代から30歳代は【反対計】が【賛成計】を上回っているが、40歳代以上は、【賛成計】が【反対計】を上回っている。一方、女性は20歳代から50歳代において【反対計】が【賛成計】を上回っており、60歳以上になると逆転している。

〈 性別・年齢別 女性は結婚したら、自分自身のことより、
夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい 〉

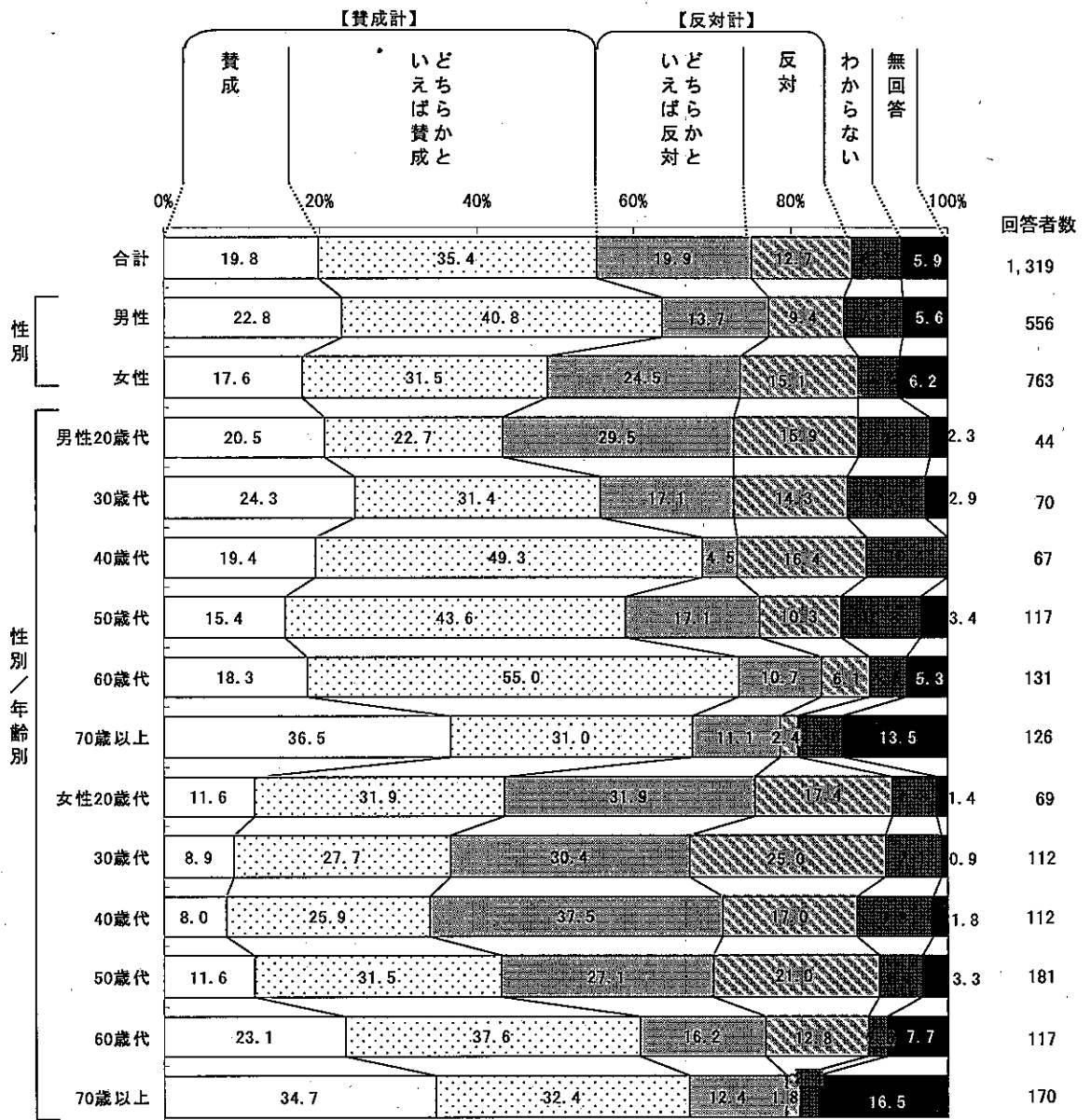


③女性は仕事をもつのも、家事・育児・介護はすべき

『女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである』という考え方を性別にみると、【賛成計】は男性が63.6%、女性が49.1%と男性が14.5ポイント高く、逆に【反対計】は男性が23.1%、女性が39.6%と女性が16.5ポイント高い。

性別／年齢別にみると、男性、女性ともに【賛成計】は年齢が上がるほど高くなる傾向がみられる。女性では60歳代以上で【賛成計】が6割を超えて【反対計】を上回っている。一方、男性では30歳代以上で【賛成計】の割合が【反対計】より高くなっている。

〈性別・年齢別 女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである〉



(3) 家事や子育て、教育、介護、地域活動などの分野に、今後、女性とともに男性の積極的な参加を進めるために、行政(国、県、市町など)が力を入れていくべきだと思うこと

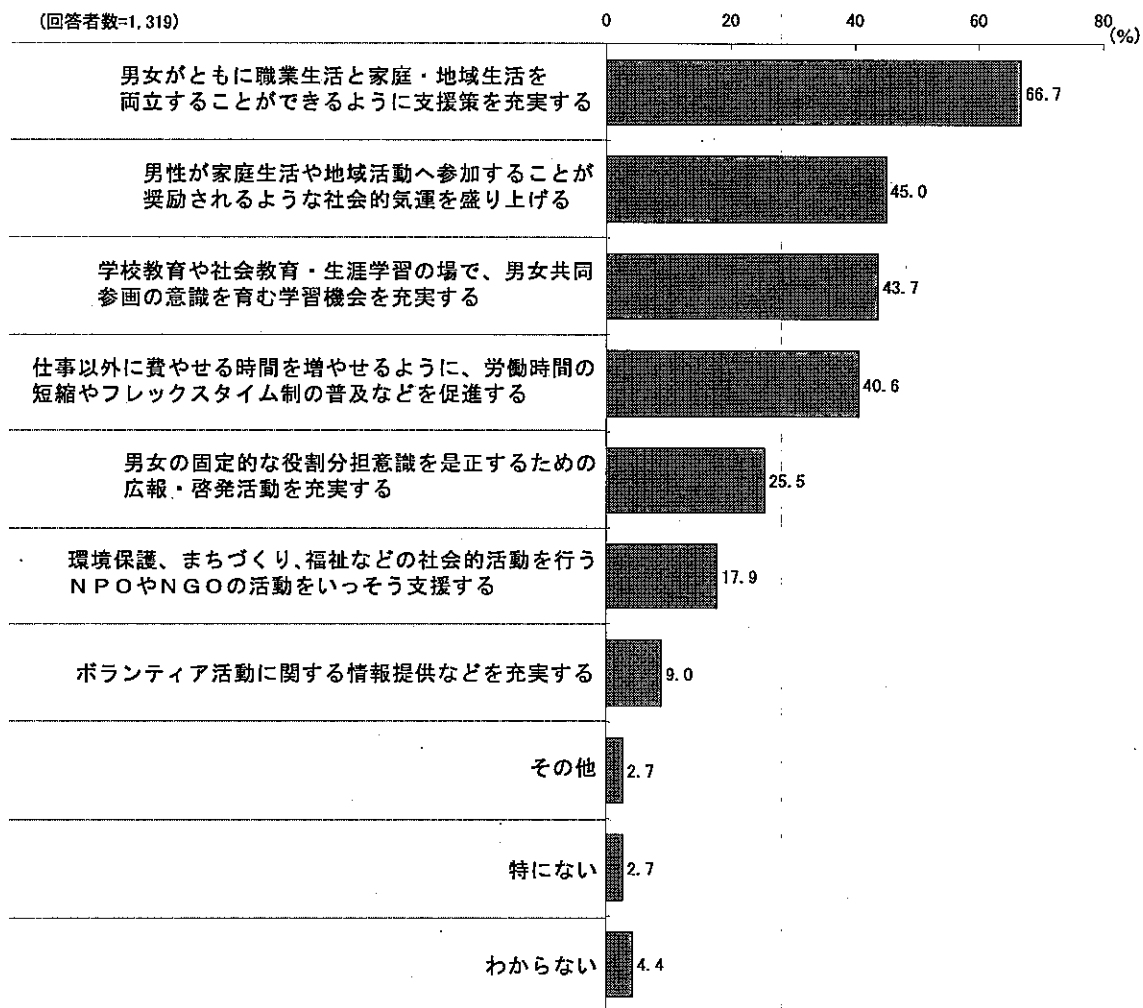
問9 あなたは今後、男性が、女性とともに家事や子育て、教育、介護、地域活動などの分野に積極的に参加していくために、行政(国、県、市町など)はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から、該当するものをすべてあげてください。

[N=1,319]

1	男女がともに職業生活と家庭・地域生活を両立することができるように支援策を充実する	66.7%
2	男性が家庭生活や地域活動へ参加することが奨励されるような社会的気運を盛り上げる	45.0%
3	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女共同参画の意識を育む学習機会を充実する	43.7%
4	仕事以外に費やせる時間を増やせるように、労働時間の短縮やフレックスタイム制の普及などを促進する	40.6%
5	男女の固定的な役割分担意識を是正するための広報・啓発活動を充実する	25.5%
6	環境保護、まちづくり、福祉などの社会的活動を行うNPOやNGOの活動をいっそう支援する	17.9%
7	ボランティア活動に関する情報提供などを充実する	9.0%
8	その他	2.7%
9	特にない	2.7%
10	わからない	4.4%

家事や子育て、教育、介護、地域活動などの分野に、今後、女性とともに男性の積極的な参加を進めるために、行政(国、県、市町など)が力を入れていくべきだと思うことについては、「男女がともに職業生活と家庭・地域生活を両立することができるように支援策を充実する」が66.7%と最も高く、「男性が家庭生活や地域活動へ参加することが奨励されるような社会的気運を盛り上げる」が45.0%、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女共同参画の意識を育む学習機会を充実する」が43.7%、「仕事以外に費やせる時間を増やせるように、労働時間の短縮やフレックスタイム制の普及などを促進する」が40.6%などとなっている。

〈 家事や子育て、教育、介護、地域活動などの分野に、今後、女性とともに
男性の積極的な参加を進めるために行政が力を入れていくべきだと思うこと 〉



性別にみると、男女とも「男女がともに職業生活と家庭・地域生活を両立することができるように支援策を充実する」が6割台で最も高く、これに、女性では「男性が家庭生活や地域活動へ参加することが奨励されるような社会的気運を盛り上げる」が5割弱で続いているが、男性ではこの項目は、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女共同参画の意識を育む学習機会を充実する」や「仕事以外に費やせる時間を増やせるように、労働時間の短縮やフレックスタイム制の普及などを促進する」に続いて4番目となっている。

年齢別にみると、どの年代も「男女がともに職業生活と家庭・地域生活を両立することができるように支援策を充実する」が最も高くなっている。20歳代から40歳代では「仕事以外に費やせる時間を増やせるように、労働時間の短縮やフレックスタイム制の普及などを促進する」が5割を超えている。

〈 性別・年齢別 家事や子育て、教育、介護、地域活動などの分野に、今後、女性とともに男性の積極的な参加を進めるために行政が力を入れていくべきだと思うこと 〉 (単位 %)

	回答者数(人)	男女の固定的な役割分担意識を充実するための広報・啓発活動を	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女共同参画の意識を育む学習機会を充実する	男女がともに職業生活と家庭・地域生活を両立することができるよう支援策を充実する	ボランティア活動に関する情報提供などを充実する	男性が家庭生活や地域活動へ参加することが奨励されるような社会的気運を盛り上げる	仕事以外に費やせる時間を増やせるように、労働時間の短縮やフレックスタイム制の普及などを促進する	環境保護、まちづくり、福祉などの社会的活動を行うNPOやNGOの活動をいっそう支援する	その他	特になし	わからない	
合計	1,319	25.5	43.7	66.7	9.0	45.0	40.6	17.9	2.7	2.7	4.4	
性別	男性	556	25.7	42.3	65.6	9.7	39.4	40.6	21.2	3.4	3.6	4.1
	女性	763	25.3	44.7	67.5	8.5	49.0	40.5	15.5	2.2	2.1	4.6
年齢別	20歳代	113	16.8	47.8	73.5	4.4	48.7	60.2	15.0	8.0	0.9	1.8
	30歳代	182	21.4	30.2	67.0	2.7	50.0	59.3	11.0	3.8	2.2	3.3
	40歳代	179	28.5	43.6	71.5	5.6	42.5	51.4	11.2	2.8	3.4	0.6
	50歳代	298	23.8	50.3	70.1	9.1	50.0	44.3	16.8	2.3	2.0	2.0
	60歳代	248	27.4	47.6	66.1	10.9	44.0	28.2	23.4	2.8	4.8	2.4
	70歳以上	296	29.7	40.2	57.8	15.2	37.2	21.6	24.0	0.3	2.4	12.5

(4) 政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進まない理由

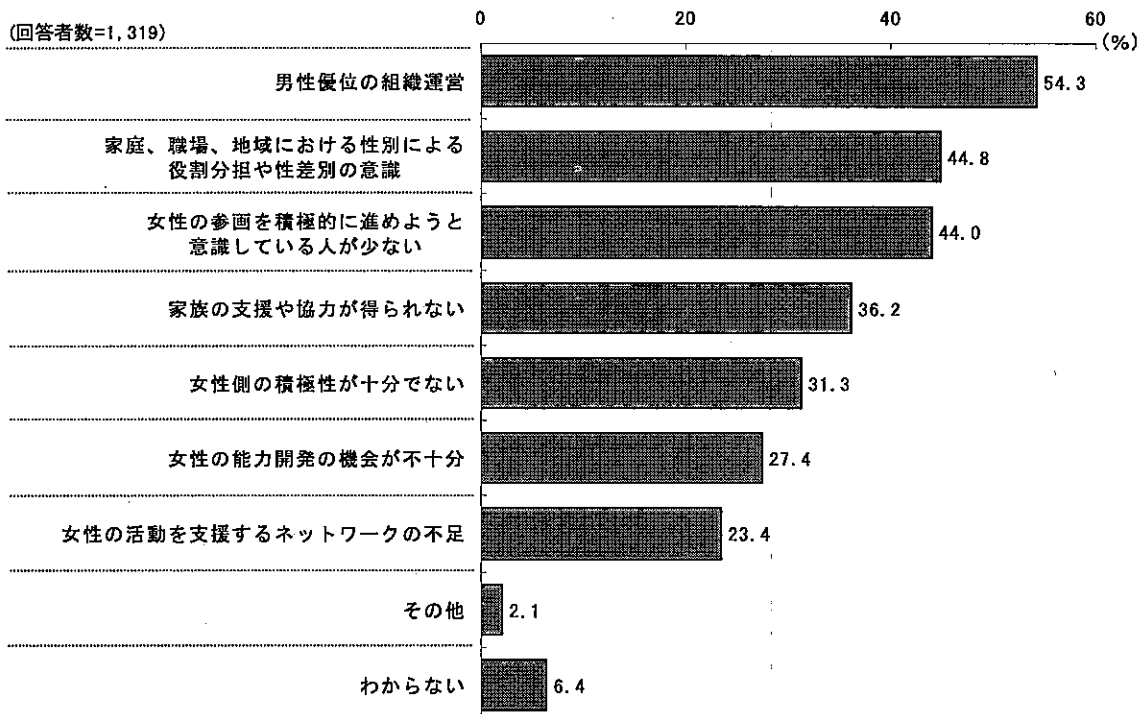
問 10 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中から、該当するものをすべてあげてください。

[N=1,319]

1 男性優位の組織運営	54.3%
2 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識	44.8%
3 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない	44.0%
4 家族の支援や協力が得られない	36.2%
5 女性側の積極性が十分でない	31.3%
6 女性の能力開発の機会が不十分	27.4%
7 女性の活動を支援するネットワークの不足	23.4%
8 その他	2.1%
9 わからない	6.4%

政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進まない理由については、「男性優位の組織運営」が 54.3%、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」が 45.0%、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が 44.0%、「家族の支援や協力が得られない」が 36.2%などとなっている。

〈政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進まない理由〉



性別にみると、男女とも「男性優位の組織運営」が5割台で最も高く、これに「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」、「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ない」が4割台で続いている。

年齢別にみると、20歳代から50歳代までは「男性優位の組織運営」の比率が最も高いが、60歳代と70歳以上では「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ない」が最も高い比率となっている。

〈 性別・年齢別 政治や行政において、政策の企画や
方針決定の過程に女性の参画が進まない理由 〉

(単位 %)

	回答者数(人)	家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識	男性優位の組織運営	家族の支援や協力が得られない	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援するネットワークの不足	女性側の積極性が十分でない	女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ない	その他	わからない
合計	1,319	44.8	54.3	36.2	27.4	23.4	31.3	44.0	2.1	6.4
性別	男性	45.3	50.0	33.6	25.2	23.2	32.7	44.8	2.9	6.8
	女性	44.4	57.4	38.0	29.1	23.6	30.3	43.4	1.6	6.2
年齢別	20歳代	47.8	65.5	28.3	22.1	25.7	25.7	41.6	3.5	4.4
	30歳代	54.9	72.0	33.5	26.9	15.9	23.1	34.6	2.2	6.6
	40歳代	52.5	64.2	41.3	19.6	21.2	25.1	38.0	2.8	3.4
	50歳代	47.3	58.7	37.2	29.2	23.5	30.5	49.0	1.3	4.7
	60歳代	39.1	45.6	37.1	31.5	26.6	33.9	50.4	2.8	5.2
	70歳以上	35.5	35.5	36.1	29.7	26.0	41.2	44.3	1.4	11.8

(5) 女性があまり進出していない分野に女性の進出を進めていくために必要だと思われる取り組み

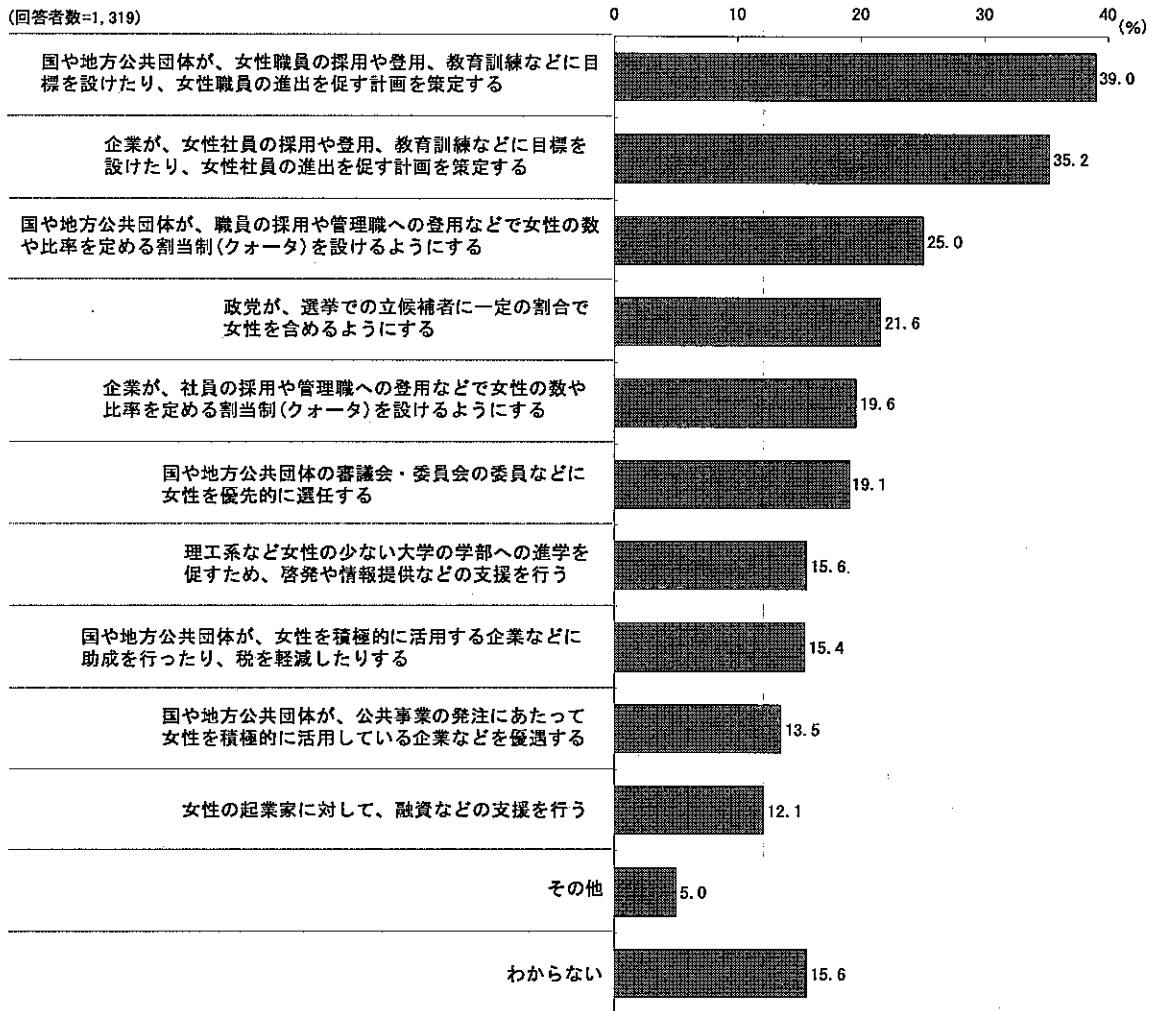
問 11 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性の進出を進めていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から、該当するものをすべてあげてください。

[N=1,319]

1	国や地方公共団体が、女性職員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する	39.0%
2	企業が、女性社員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する	35.2%
3	国や地方公共団体が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	25.0%
4	政党が、選挙での立候補者に一定の割合で女性を含めるようにする	21.6%
5	企業が、社員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	19.6%
6	国や地方公共団体の審議会・委員会の委員などに女性を優先的に選任する	19.1%
7	理工系など女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う	15.6%
8	国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする	15.4%
9	国や地方公共団体が公共事業の発注にあたって女性を積極的に活用している企業などを優遇する	13.5%
10	女性の起業家に対して、融資などの支援を行う	12.1%
11	その他	5.0%
12	わからない	15.6%

女性があまり進出していない分野に女性の進出を進めていくために必要だと思われる取り組みについては、「国や地方公共団体が、女性職員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する」が39.0%と最も高く、次いで「企業が、女性社員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する」が35.2%、「国や地方公共団体が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設ける」が25.0%、「政党が、選挙での立候補者に一定の割合で女性を含めるようにする」が21.6%などとなっている。

〈 女性があまり進出していない分野に女性の進出を進めていくために必要だと思われる取り組み 〉



性別にみると、男女とも「国や地方公共団体が、女性職員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する」が最も高く、これに「企業が、女性社員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する」が続いている。

年齢別にみると、40歳代以上では「国や地方公共団体が、女性職員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する」が最も高く、これに「企業が、女性社員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する」が続いているが、20歳代では「国や地方公共団体が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする」と「企業が、女性社員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する」が同率で最も高く、30歳代では「企業が、女性社員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する」が最も高くなっている。

〈 性別・年齢別 女性があまり進出していない分野に女性の進出を進めていくために必要だと思われる取り組み 〉

(単位 %)

	回答者数(人)	政党が、選挙での立候補者に一定の割合で女性を含めるようにする	国や地方公共団体の審議会・委員会の委員などに女性を優先的に選任する	国や地方公共団体が、公共事業の発注にあたって女性を積極的に活用している企業などを優遇する	国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする	国や地方公共団体が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	国や地方公共団体が、女性職員の採用や教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する	企業が、社員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当制(クォータ)を設けるようにする	企業が、女性社員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する	企業が、女性社員の採用や登用、教育訓練などに目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する	理工系など女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う	女性の起業家に対して、融資などの支援を行う	その他	わからない
合計	1,319	21.6	19.1	13.5	15.4	25.0	39.0	19.6	35.2	15.6	12.1	5.0	15.6	
性別	男性	556	22.3	22.3	12.6	15.1	23.2	36.3	20.5	34.2	16.9	10.8	6.3	15.3
	女性	763	21.1	16.8	14.2	15.6	26.3	40.9	18.9	35.9	14.7	13.1	4.1	15.9
年齢別	20歳代	113	22.1	15.0	10.6	12.4	37.2	34.5	23.0	37.2	18.6	11.5	11.5	10.6
	30歳代	182	20.3	15.9	12.1	18.7	19.8	31.9	23.6	37.4	17.6	8.8	5.5	13.2
	40歳代	179	23.5	18.4	15.6	14.0	24.6	40.8	17.9	36.9	10.1	11.2	8.4	12.8
	50歳代	298	19.8	17.8	14.1	20.1	30.2	46.3	22.8	40.9	13.4	15.1	3.7	12.4
	60歳代	248	21.8	25.4	12.5	15.3	26.2	39.1	18.5	32.7	12.9	13.3	4.4	14.9
	70歳以上	296	23.0	19.3	14.5	10.8	17.9	36.1	14.5	28.0	20.9	11.1	2.0	24.7

(6) 「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、行政に望むこと

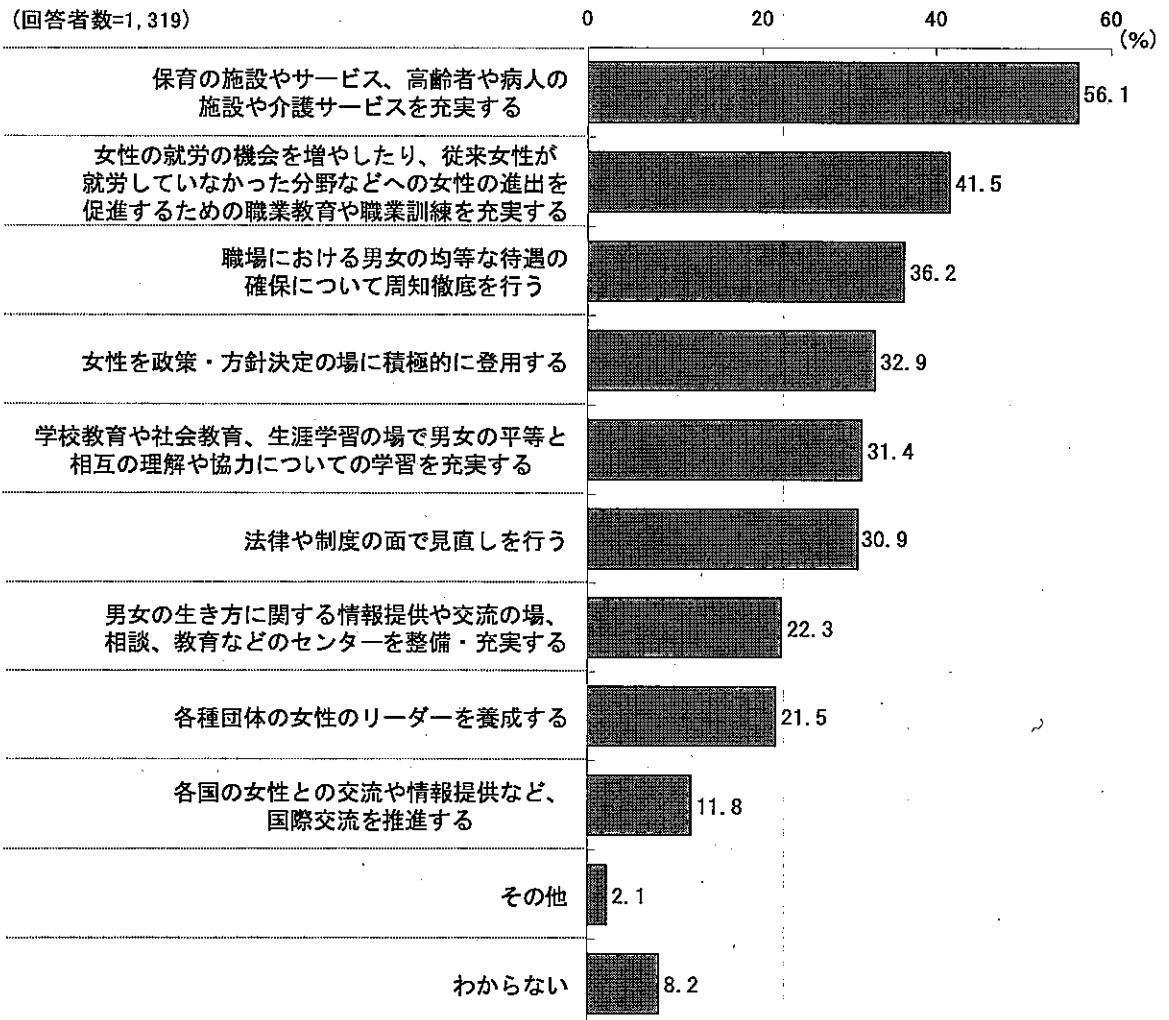
問 12 「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、行政はどのようなところに力をいれていくべきだと思いますか。次の中から、該当するものをすべてあげてください。

[N=1,319]

1	保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	56.1%
2	女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する	41.5%
3	職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底を行う	36.2%
4	女性を政策・方針決定の場に積極的に登用する	32.9%
5	学校教育や社会教育、生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	31.4%
6	法律や制度の面で見直しを行う	30.9%
7	男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを整備・充実する	22.3%
8	各種団体の女性のリーダーを養成する	21.5%
9	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	11.8%
10	その他	2.1%
11	わからない	8.2%

「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、行政に望むことについては、「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の比率が 56.1%と最も高く、次いで「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する」が 41.5%、「職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底を行う」が 36.2%、「女性を政策・方針決定の場に積極的に登用する」が 32.9%、「学校教育や社会教育、生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が 31.4%、「法律や制度の面で見直しを行う」が 30.9%などとなっている。

〈「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、行政に望むこと〉



性別にみると、男女とも「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の比率が最も高いが、男性は5割未満であるのに対して、女性では6割を超えている。

年齢別にみると、どの年代でも「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の比率が最も高くなっており、これに20歳代では「職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底を行う」が、30歳代から50歳代では「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する」が、60歳代以上では「女性を政策・方針決定の場に積極的に登用する」が続いている。

〈性別・年齢別 「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、行政に望むこと〉

(単位 %)

	回答者数(人)	法律や制度の面で見直しを行う	女性を政策・方針決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底を行う	女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する	保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	学校教育や社会教育、生涯学習の場での男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを整備・充実する	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	その他	わからない	
合計	1,319	30.9	32.9	21.5	36.2	41.5	56.1	31.4	22.3	11.8	2.1	8.2	
性別	男性	556	34.7	34.7	22.3	35.6	42.4	47.7	32.6	22.1	12.9	3.1	7.7
	女性	763	28.0	31.6	21.0	36.7	40.8	62.3	30.5	22.4	10.9	1.4	8.5
年齢別	20歳代	113	35.4	25.7	23.0	44.2	42.5	56.6	31.0	24.8	15.9	5.3	5.3
	30歳代	182	37.4	23.6	13.2	42.9	44.5	63.2	25.8	13.7	8.2	1.6	5.5
	40歳代	179	29.6	35.2	21.2	39.1	39.7	50.3	34.1	22.9	6.7	2.8	3.9
	50歳代	298	26.8	33.9	19.5	39.9	52.7	62.4	33.9	24.5	14.8	1.7	6.0
	60歳代	248	30.2	35.5	22.2	33.5	35.1	52.4	33.1	22.2	13.3	2.8	9.3
	70歳以上	296	30.7	37.2	28.0	26.4	33.8	51.4	29.1	23.6	11.1	0.7	14.9